

静岡県漁業協同組合連合会
No.1102 静岡市追手町 9-18
16.7.23 ☎ 054-254-6011
編集・発行＝指導部漁政課

1. 「海の子フェスタ2004」新焼津漁港で盛大に開催

去る7月19日(海の日)、海の子フェスタ実行委員会(静岡県、県教委、焼津市、県漁連、焼津・小川漁協、水産関係団体)主催による、さかな王国海のフェスティバル「海の子フェスタ2004」が焼津市新焼津漁港において、次代を担う子供たちに視点を当て、海の環境保全や資源管理の重要性を学ぶ機会を提供しようと、昨年旧清水市に引き続き開催されました。

当日は猛暑の中、県内漁業関係者をはじめ地元市民ら約3万人の人出で賑わい、式典では主催者を代表して、西川徳市実行委員会会長(本会会長)の挨拶のあと、鈴木雅近県副知事より挨拶があり、続いて戸本隆雄焼津市長が歓迎の言葉を述べ、次に来賓の原田令嗣衆議院議員、八木健次県議会副議長が夫々祝辞を述べました。

続いて、去る6月19日深層水ミュージアムで開催された、海の探検隊“深層水のなぞにせまる”に参加した児童、山田夏穂理さん(焼津市立豊田小6年)、枝村拓磨君(静岡市立田町小5年)より、豆腐作りの体験や、深層水施設を探検した体験発表が元気よく行われた後、同フェスタに華を添えている、独立行政法人航海訓練所練習船「銀河丸」(6,185トンの)船長竹井義晴氏より子供たちに向けて海への思いを大切にしてほしいとメッセージが述べられました。

引き続き、(財)漁船海難遺児育英会専務理事小川宏一氏がプレゼンターとなり、長年に亘り同育英募金運動に協力した、県立焼津水産高等学校生徒会及び、中島音楽事務所(焼津市)へ感謝状が贈呈されました。

この後、橋ヶ谷善生小川漁協長より大会決議が読み上げられ、最後に星川壽美雄県信漁連会長より閉会の言葉が述べられ式典は終了しました。

式典終了後、岸壁で主催者、来賓、招待者、海の探検隊の児童等により、マダイ、ヒラメの記念放流が行われました。

また、当日会場では、銀河丸の一般公開、漁船体験乗船、まぐろの解体ショー・模擬セリ、マグロの重量当てクイズ、アサリのつかみ取り、焼津・大井川町漁協女性部のカツオめし、サクラエビのかき揚げの試食販売、その他水産物等の即売、水産高校生によるカツオの一本釣り体験、みなと群舞の披露など多彩な催しが行われたほか、会場に隣接する深層水ミュージアムも同フェスタに合わせ開館し、終日家族連れで賑わいました。

2. 最近のシラス漁況

- 県水産試験場 -

県水産試験場では、最近のシラス漁況を公表しました。

それによると、平成16年3～6月の主要6港(静岡・吉田・御前崎・福田・舞阪・新居)の総水揚量は960.5トンで、前年の50%、平年(過去5か年平均)の34%と極めて低調で、過去20年で最低の水揚量でした。同じく総水揚金額は748,905千円で、前年の67%、平年の43%と低調でした。また、平均単価は780円/kgと前年の135%、平年の126%と前年、

平年ともに上回りました。

1日1か統当り水揚量の推移をみると、3月下旬の解禁から4月下旬まで1日1か統当りの水揚量は順調に増加し、4月下旬には300kg弱まで増加しました。しかし、5月以降では漁況が低調に推移し、1日1か統当り水揚量は6月上中旬には50～60kgまで減少しました。6月下旬に漁況が好転し、1日1か統当り水揚量が188kgまで増加しましたが、依然平年と比べると低調でした。

月別水揚量の推移をみると、3月は23トンと前年の101%、平年の24%と前年並みで、平年を大きく下回りました。4月は434トンと前年の44%、平年の87%と好調だった前年を大きく下回り、平年を下回りました。しかしながら、3～4月で見ると、平年を下回っているものの、盛漁期を早く迎えた年(平成11、15年)を除けばむしろ例年より好調でした。5月は321トンと前年の86%、平年の34%と、低調だった前年を下回り、平年を大きく下回りました。6月は183トンと前年の33%、平年の14%と著しい不漁でした。特に6月上中旬の不漁が顕著で、この期間の水揚量は33トンでした。

同試験場による3月の予測研修会では、初漁期(CPUEが200kg以上)は4月中～下旬、春漁(3～6月)水揚量は前年、平年を大きく上回ると予測(海況により予測より下回る可能性も指摘)していましたが、初漁期については予測どおりだったものの、水揚量については予測から大きく外れました。

不漁となった原因として、黒潮蛇行部が東進せず四国沖に留まったことが挙げられ、そのため、6月中旬まで黒潮の北上部が紀伊水道外域にぶつかり、潮岬以東は黒潮が接岸傾向・直線基調で推移し、沿岸への暖水波及も少ない傾向でした。卵稚仔調査から産卵状況は好調であったことが判明していますが、茨城県東方沖で、例年より多く卵稚仔が採集されていることから、卵・仔魚が沖合に流去してしまった可能性もあります。

7月上旬現在、黒潮北上部は既に潮岬を越えて遠州灘に流入しており、8月にはA型へ移行すると予測されています。よって海況による悪影響は少なくなり、今後シラス漁況が回復して前年並みの漁獲量となる見込みです。

3. 県産農水産物をPR アジアに照準

県、県経済連、水産加工メーカー、本会や製茶・清酒製造メーカーをはじめ33団体の会員で構成する「しずおか農水産物海外市場開拓研究会」では、このほど初会合を開きました。

研究会の初会合では、本年度5回の会合を開く予定とし、上海、香港のバイヤーを招いて生産現場などを見てもらうPR活動を行い、9月には上海で開かれる国際食品見本市「フード&ホテル・チャイナ2004」に出展を予定するほか、来年2月に県独自の商談会を香港で開催し、経済成長の顕著なアジアをターゲットに、高品質な県産農水産物を売り込む活動計画をまとめました。

4. 諸会議・日程(7月27日(火)～8月9日(月))

- 既報分省略 -

8月3日(火) 県漁連＝坂井平田・相良町漁協合併仮契約書調印式 (坂井平田漁協)

8月6日(金) 県機船底曳網組合＝役員会 (県水産会館)

〃 県おさかな普及協議会＝夏休み親子おさかな体験教室 (由比港漁協)